

## 本の感想など

菊池 祐宏<sup>\*1</sup>  
Kikuchi Yuko

本の感想や旅行の記憶など思いつまま書いてみようと思います。

## 1. 小説

## ・ Michael Connelly 作 Harry Bosch シリーズ

主人公はロサンゼルス市警察 (LAPD) ハリウッド署の刑事です。丹念に資料を読み、詰めのきいた捜査をして執拗しつように犯人を追いつめます。後半のストーリー展開が速く、終わり近くにどんでん返しがあって途中で飽きることが少ないです。印象に残っている作をいくつか挙げます。

*Angels Flight*: タイトルから飛行機に関係する話かなと思ったのですが、*Angels Flight* は LA 市街にあるケーブルカーでした。Bosch は、Amazon Video で映像化されていて *Angels Flight* が急坂を登る姿を見られます。

*The Poet*: Bosch シリーズではないですが、新聞記者が兄の死に疑問を持ち調査するうちに殺人であることがわかって FBI が動くという話です。その続編が Bosch シリーズの *The Narrows* で、Poet との決着がつきます。

## ・ Michael Connelly 作 The Lincoln Lawyer シリーズ

主人公は、事務所を持たずリンカーンというセダンの後部座席で作業する、刑事事件の弁護士です。優秀な弁護士で悪党を助けます。犯罪者を逮捕前に助けるのが共犯者で、逮捕後に助けるのが

弁護士というジョークを思い出させます。

## ・ Robert B. Parker 作 Spenser シリーズ

主人公はボストンの私立探偵 Spenser (ser でなく ser です) で、タフで自分のスタイルにこだわります。このシリーズの魅力は、Spenser と周囲の登場人物の性格と行動様式にあると思います。

## ・ Louis Sachar 作 Holes

英文読解の練習のために買った本です。比較的平易な英語で書かれていると思います。主人公はひたすら穴掘りをさせられます。徐々に理由が明らかになっていき大団円を迎えるところまで読み通せました。早く話の続きを知りたいと思わせる本で英語の練習に適していると思いました。

## ・ Dick Francis 作 競馬スリラーシリーズ

先輩から教えてもらって読み始めた本です。作者はイギリス人で、障害競走の元騎手です。主人公は、複数回登場する人もいますが大半は毎回違う人です。騎手や調教師のときもありますが、たまたま競馬予想プログラムを手に入れた教師、競走馬に投資することになった銀行マン、酒屋の店主などさまざまで、何らかの形で競馬に関わっています。作中の競馬関係者が、競馬をよく知らない登場人物に (同時に読者にも)、競馬の仕組みを説明してくれるので、競馬の知識がなくても楽し

\*1: 監査役

めます。英文で読んだものもありますが、語彙も構文も難しいと思いました。アメリカ人作家よりイギリス人作家のほうが難しい英語を書くような気がします。

## 2. 歴史

### ・ガリア戦記

カエサルが属州総督としてガリア(今のフランスあたり)に遠征して平定していく様子をカエサル自身が書いた本です。ローマに送った報告書がもとになっていて淡々と書かれた文章ですが引き込まれました。偽情報にだまされた敵を評して、カエサルは「およそ人は自分の望みを勝手に信じてしまう」と書いています。2000年以上前に人間心理の普遍的な一面を言い当てていると思いました。その裏返しで、望まないことは信じたくないし聞きたくないのもまた人間の心理かと思いません。

### ・米欧回覧実記(久米邦武編著 田中彰校注)

岩倉使節団がアメリカ、欧州を見聞した記録です。西欧文明に衝撃を受けながらも冷静に観察、分析しています。片仮名交じりの文語調は少々読みづらく、まだアメリカ編しか読んでいませんがいつか通読したいと思っています。

## 3. 仕事関係

### ・木下是雄 理科系の作文技術

明解、簡潔な文章を書くための解説書です。初版が出たのは1981年ですが、今も版を重ねていて色あせていません。著者は、理解できるだけでなく誤解できないように、一義的にしか読めない文、他の意味にはとれない文を書くべきであると言っています。理科系の～というタイトルですが理系、文系問わずお勧めできる本です。

### ・畑村洋太郎 失敗学のすすめ

前に所属していた部門の長が推薦図書として挙げていたので読んでみたものです。著者は失敗学の提唱者で、大学で機械工学を教えていた時、正しいやり方のみの指導から失敗に学ぶ指導に至った経緯についても書かれています。

## 4. その他

### ・風の谷のナウシカ

これは漫画です。宮崎アニメのファンというわけではないですが、野口悠紀雄が評論していたので興味を持ち読んでみました。ストーリーが映画とは違っていて複雑です。野口は、ナウシカは<sup>ゆびお</sup>指環物語であると言い、ニーベルングの指環、指輪物語(トールキン作)との対応を並べ、さらに現実世界との対応付けを行っています。ファンタジーのそういう楽しみ方もあることを知りました。

### ・capeta

これも漫画です。主人公はカーレーサーです。所属するチームが資金難に陥りシーズン途中で活動中止になりかけた時、マレーシアの石油会社がスポンサーになってくれて継続できることになるというくだりがありました。私がクアラルンプールのペトロナスタワーというビルに行った時F1カーが展示されていました。後で調べたところ、漫画に出てきた石油会社はマレーシアの国営石油会社ペトロナスがモデルで、F1カーがあったのはペトロナスがメルセデスのスポンサーになっていたからだとわかりました。このビルに行った目的は86階にあるという展望台に上ることでした。時間ごとの人数制限があって先に入場券を買わないといけないので開場前の早朝に行ったのですが、当日券売り場に並ぶべきところ、既に券を持っている人の所に並んでしまい、気づいた時には午前



Chicago Board of Trade Building (中央)

中の券は売切れて、午後は別の予定があったので仕方なく5階あたりでコーヒーを飲んで帰りました。

#### ・ダークナイト (バットマンシリーズの映画)

シカゴを訪れた時、ホテルの近くの丁字路の突きあたりに印象的なビルがありました。何年かしてから、たまたまこの映画をテレビで見て、対決シーンに見覚えがあるビルが映っていると思って調べたらシカゴで見たビル (Chicago Board of Trade Building) でした。この近くのピザ屋で食事したのですが、アメリカでは残ったら持って帰るのが当

たり前のように、いろいろなサイズの持ち帰り用の箱が用意されているのに感心しました。ピザは、おいしいし持ち帰って翌朝ホテルのレンジで温められるから好んで食べました。一方、スパゲティはあまりおいしいものに当たりませんでした。ラザニアはあるがスパゲティはないというイタリア料理店もあって、あまり人気がなく、人気がないから調理技術が発達せずおいしくないのだろうと推察しました。

とりとめのない文章にお付き合いいただきありがとうございます。



監査役

菊池 祐宏

TEL. 045-791-3557

FAX. 045-791-3555